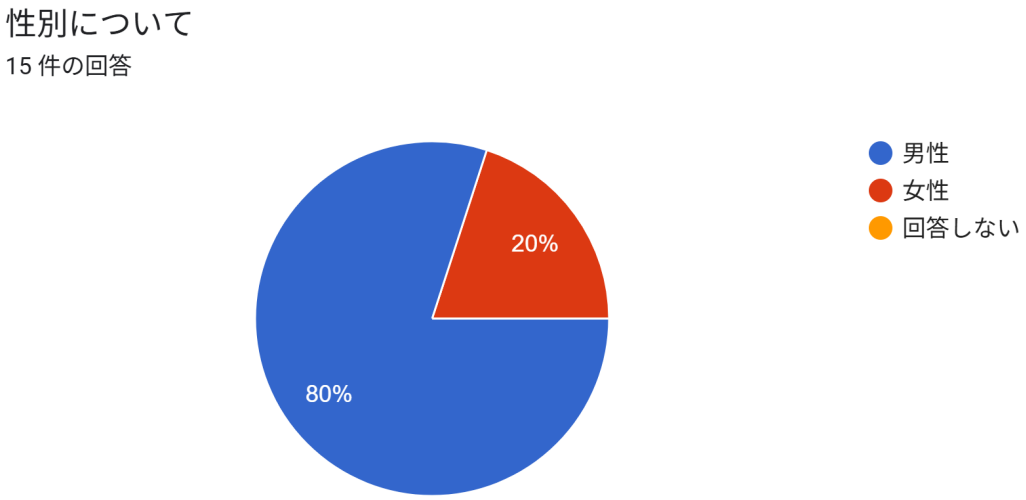
HOKKAIDO UNIVERSITY

2026年度
福島第一原子力発電所、廃炉資料館、IHI並びにJAEA見学
アンケート結果

北海道大学・工学研究院
原子力安全先端研究・教育センター

参加者情報(1):性別



参加者情報(2):大学・学部・学科・学年

大阪大学工学部環境・エネルギー工学科4年
東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻修士2年
富山大学理学部化学科4年
弘前大学大学院・地域共創科学研究科・地域リノベーション専攻・1学年
東京科学大学大学院、環境・社会理工学院、融合理工学系原子核工学コース、修士1年
大学教員
富山大学・理学部・化学科・4年
九州大学・工学部・土木工学科・3年
北海道大学工学院修士1年
福島県立医科大学・保健科学部・診療放射線科学科・3
北海道大学大学院工学院エネルギー環境システム専攻修士1年
九州大学工学部土木工学科3年
大阪大学・工学部・環境エネルギー工学科・3年
大阪大学 工学部 環境・エネルギー工学科 学部4年
早稲田大学先進理工学部物理学科4年

参加目的

参加目的（複数回答可能）

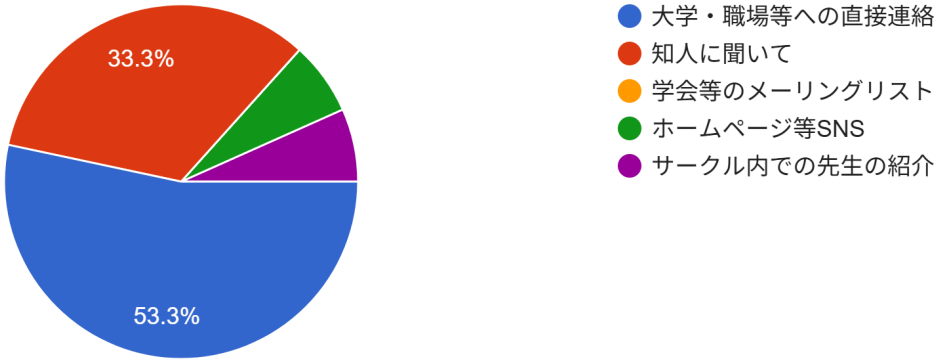
15 件の回答



認知方法

本実習の実施をどのように知りましたか？（複数回答可）

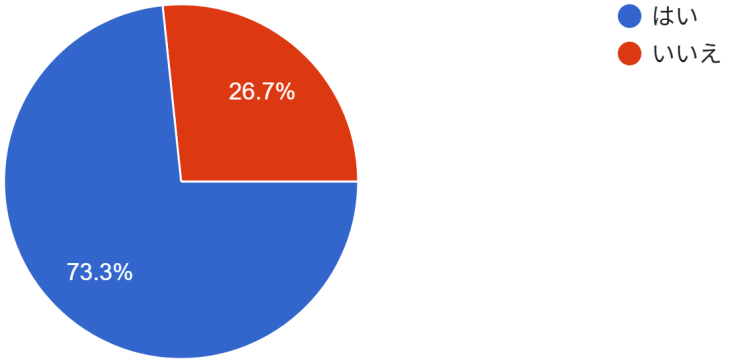
15 件の回答



知人勧誘

実習参加の勧誘を他の仲間にも行いましたか？

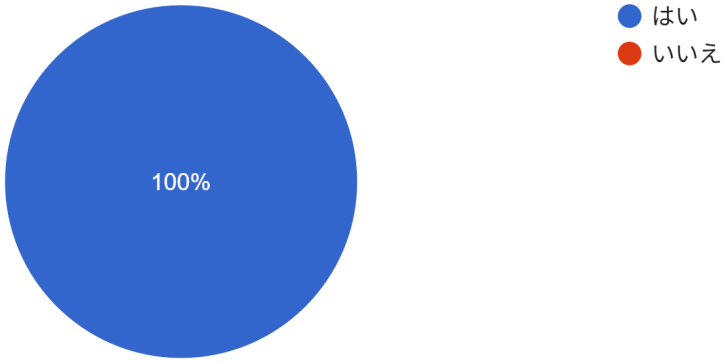
15 件の回答



事前手続き

事前案内は適切でしたか？

15 件の回答

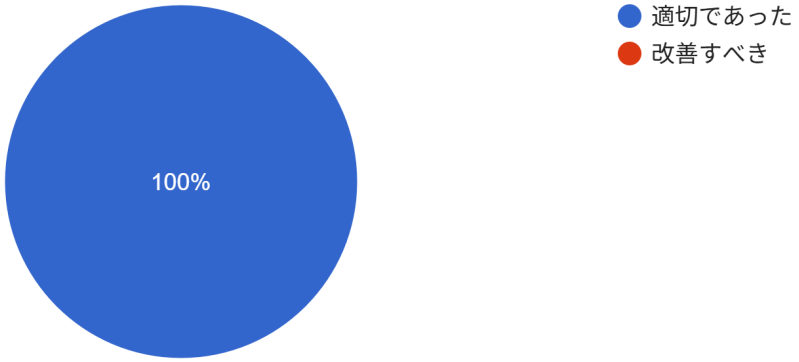


実習資料(1)

事前学習資料:「福島第一廃炉の現状」について

資料の内容は

15 件の回答

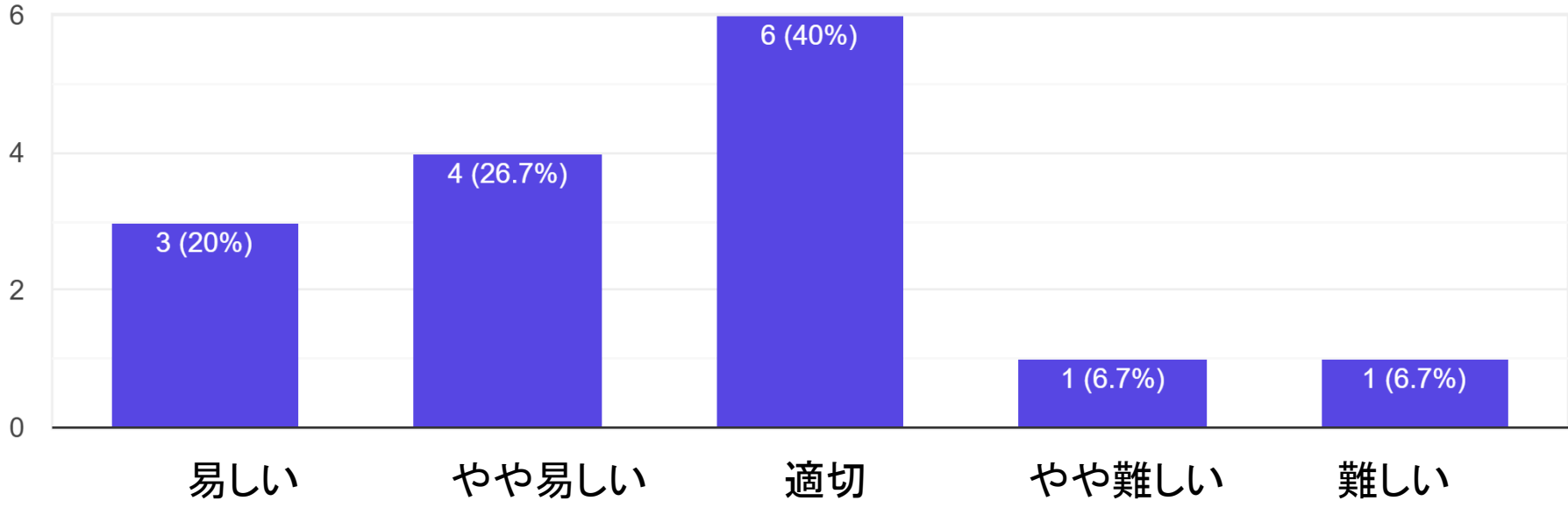


実習資料(2)

事前学習資料:「福島第一廃炉の現状」について

資料の難易度は

15 件の回答

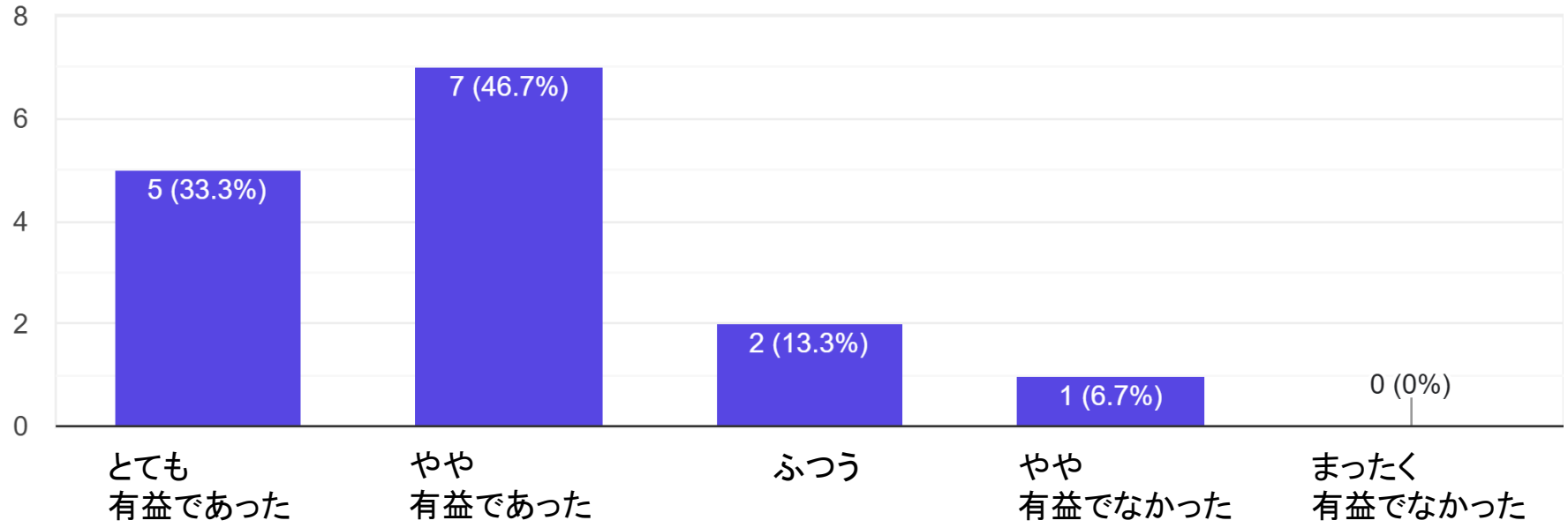


実習資料(3)

事前学習資料:「福島第一廃炉の現状」について

資料の有益度は

15 件の回答



実習資料(4)

事前学習資料として、準備して欲しいオンライン講義はありますか？

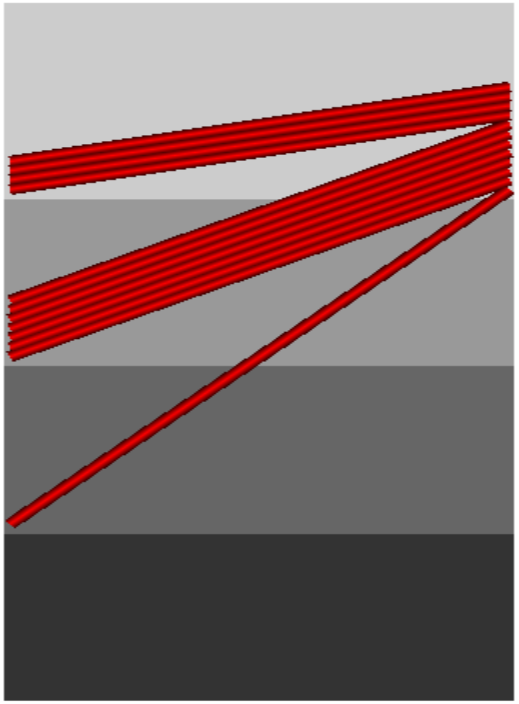
- 全体的に資料中の情報が古いと感じた。情報の更新がされていると更に現代の問題について理解が深まったのではと思う。
- 事前学習課題としては一般的な炉の廃炉についての内容と1Fの廃炉事業についての内容が多く、1F事故自体の内容が少ないと感じた。
- 廃炉に関する講義が主だったが、専門外の学生のために原子力発電技術の解説や事故の歴史等が学べる講義があれば良いと感じた。

専門用語の理解度（1）

福島第一原子力発電所（以下、「福島第一原発」） 事故の概要について

実習前

実習後



実習前	実習後
一通り理解している	一通り理解している
部分的には理解している	部分的には理解している
用語を知っている程度	用語を知っている程度
ほとんど知識がない	ほとんど知識がない

専門用語の理解度 (2)

福島第一原発の事故後の対応について

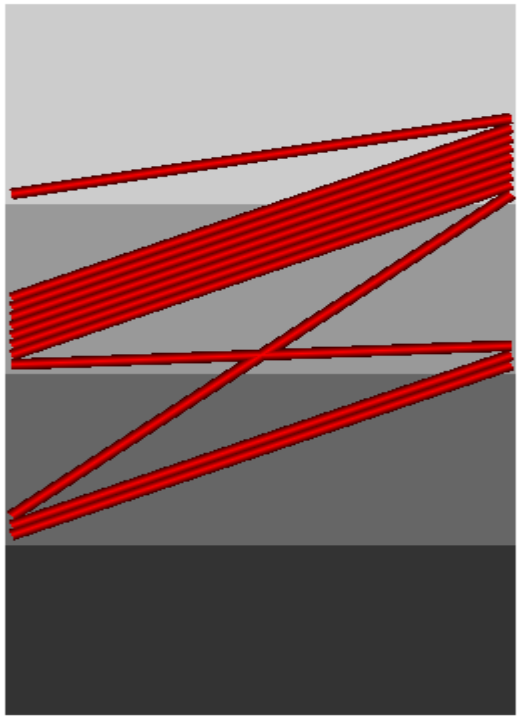
実習前

一通り理解している

部分的には理解している

用語を知っている程度

ほとんど知識がない



実習後

一通り理解している

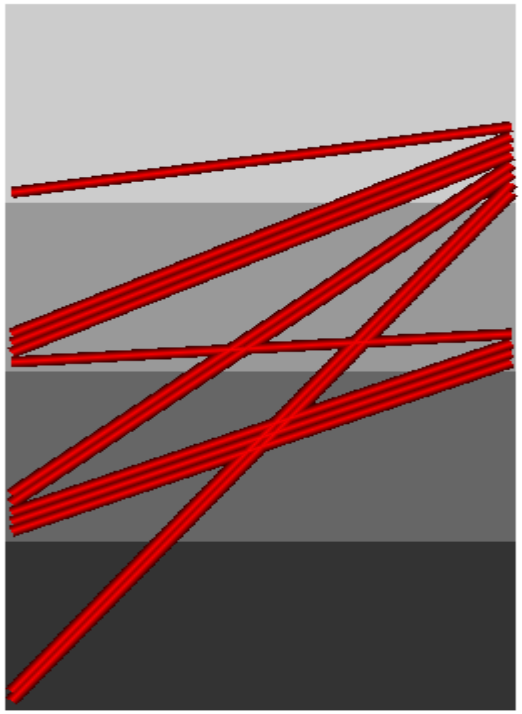
部分的には理解している

用語を知っている程度

ほとんど知識がない

専門用語の理解度 (3)

福島第一原発の現場環境の課題について

実習前		実習後
一通り理解している		一通り理解している
部分的には理解している		部分的には理解している
用語を知っている程度		用語を知っている程度
ほとんど知識がない		ほとんど知識がない

専門用語の理解度 (4)

燃料デブリについて

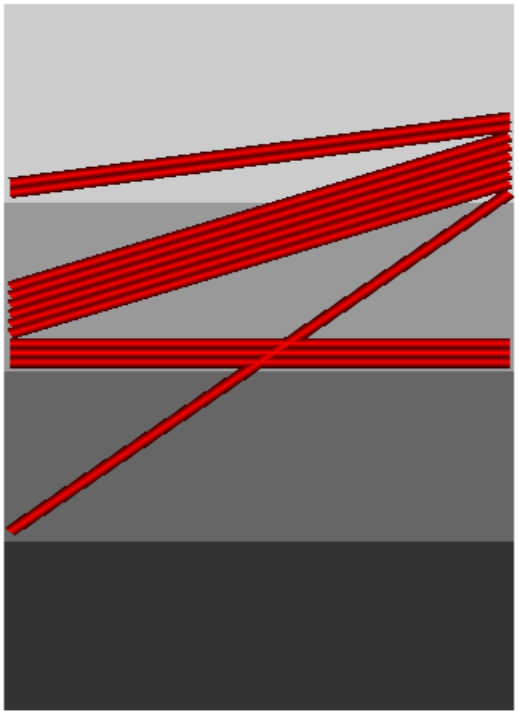
実習前

説明できる

知っている

聞いたことがある

全く知らない



実習後

一通り理解している

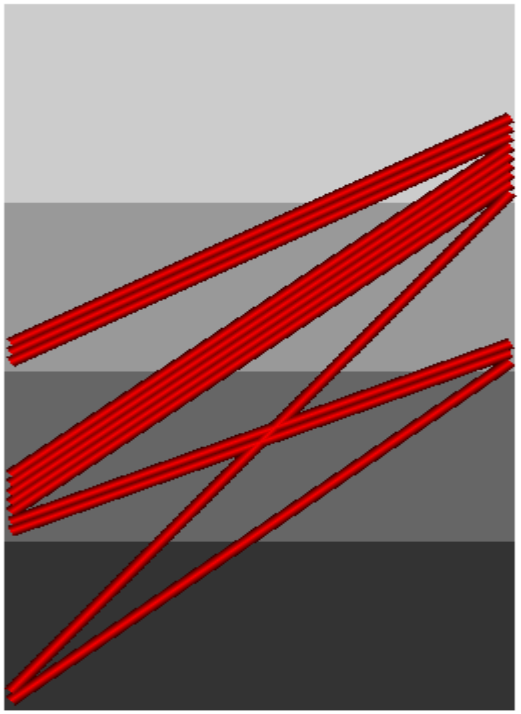
部分的には理解している

用語を知っている程度

ほとんど知識がない

専門用語の理解度 (5)

燃料デブリ取り出しに関わる課題について

実習前		実習後
説明できる		一通り理解している
知っている		部分的には理解している
聞いたことがある		用語を知っている程度
全く知らない		ほとんど知識がない

専門用語の理解度 (6)

福島第一原発廃炉作業に関わる遠隔操作ロボットについて

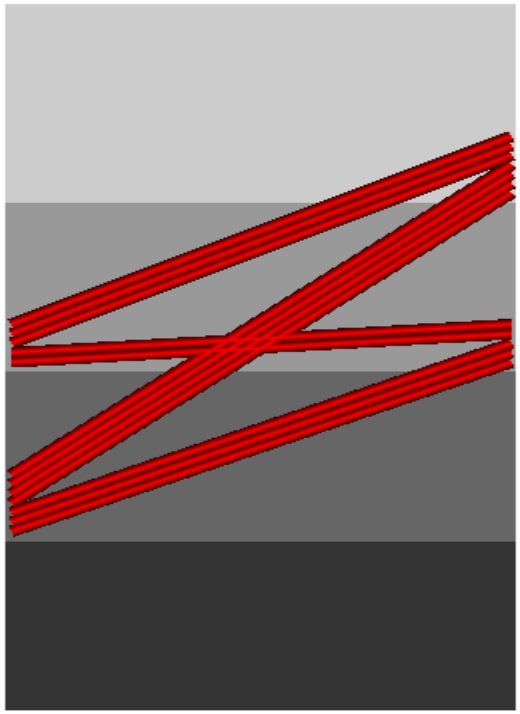
実習前

説明できる

知っている

聞いたことがある

全く知らない



実習後

一通り理解している

部分的には理解している

用語を知っている程度

ほとんど知識がない

専門用語の理解度（7）

福島第一原発廃炉作業に関わる分析業務について

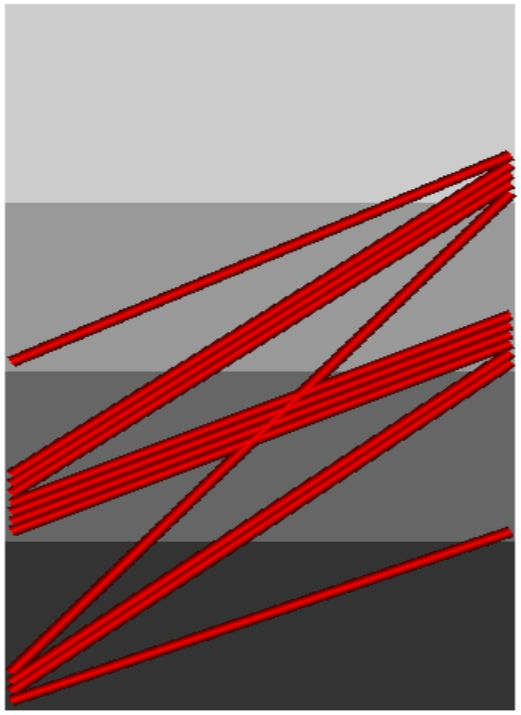
実習前

説明できる

知っている

聞いたことがある

全く知らない



実習後

一通り理解している

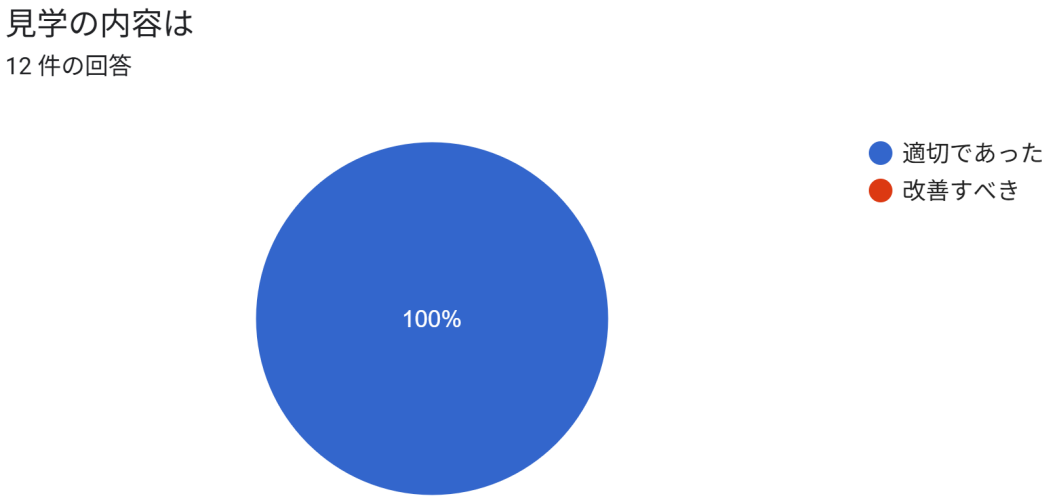
部分的には理解している

用語を知っている程度

ほとんど知識がない

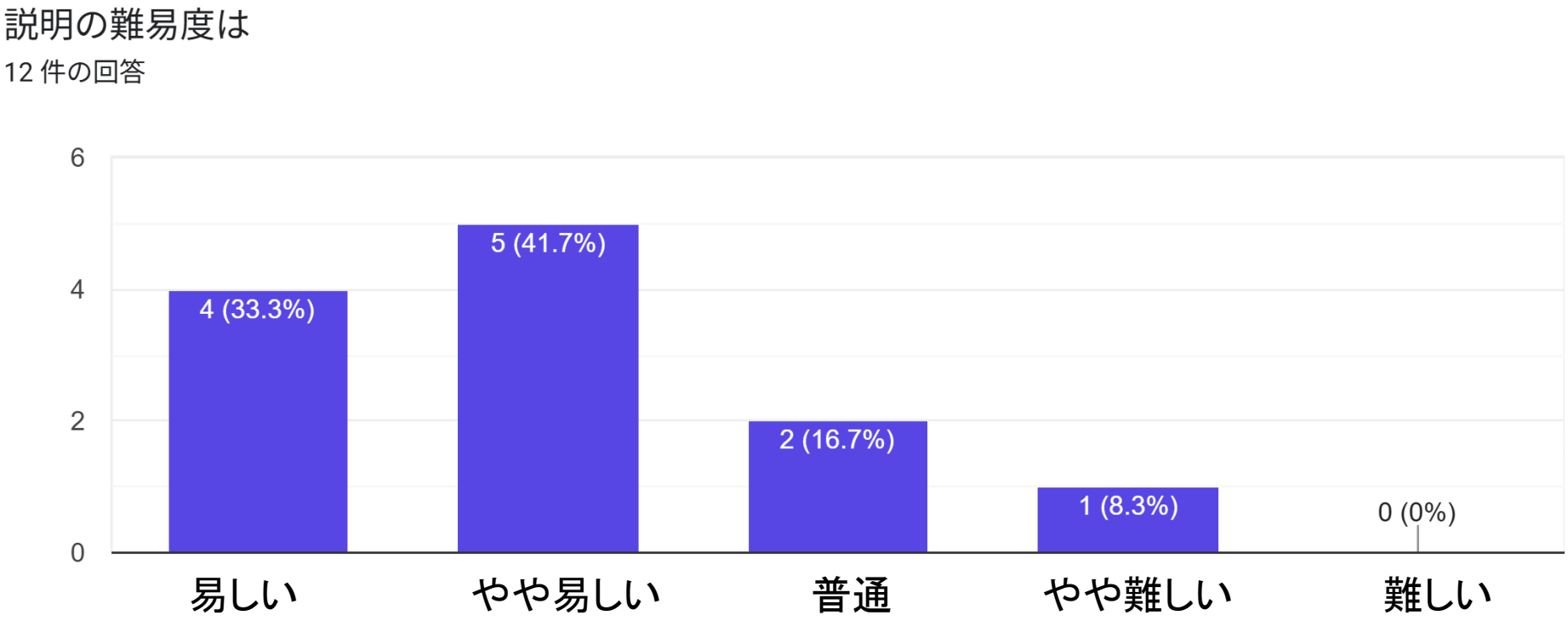
実習全体

廃炉資料館における感想について



難易度

廃炉資料館における感想について

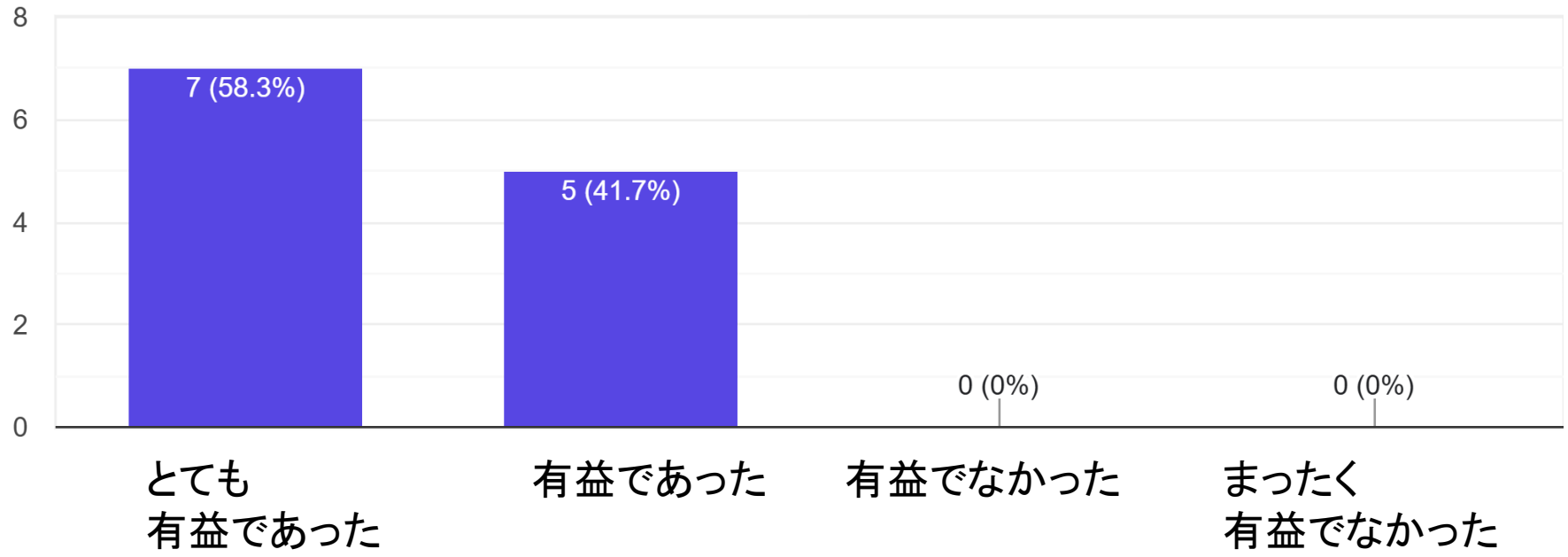


有益度

廃炉資料館における感想について

見学の有益度は

12 件の回答

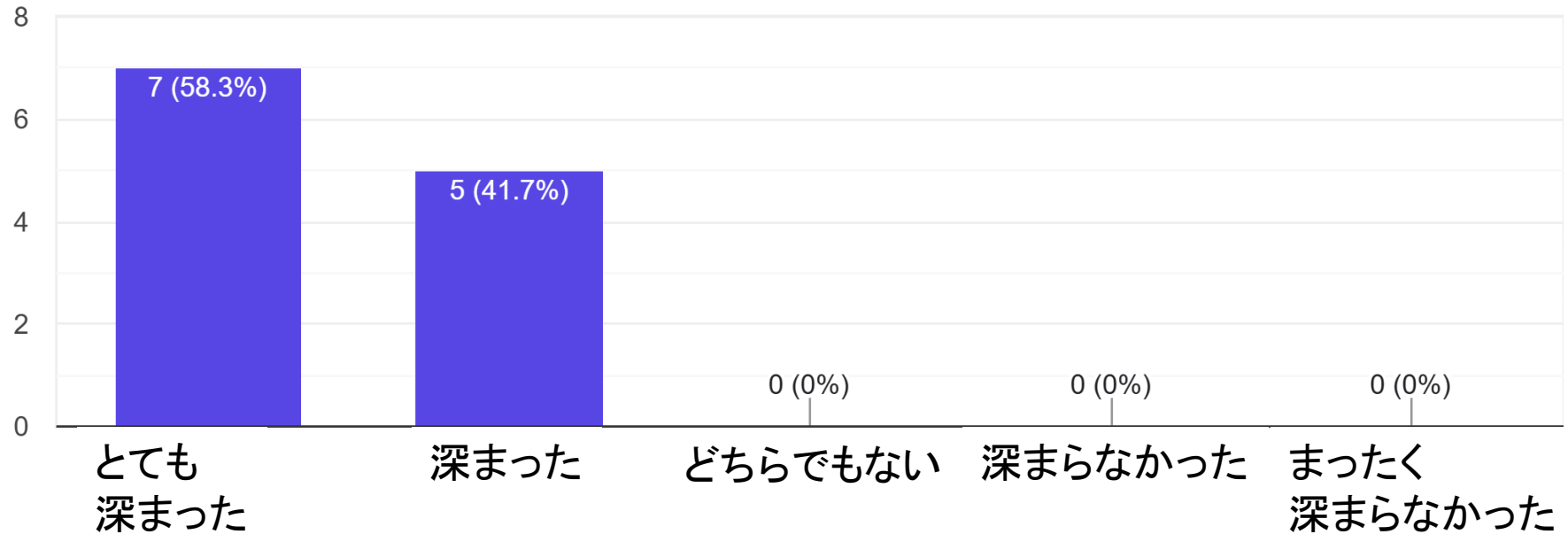


理解度

廃炉資料館における感想について

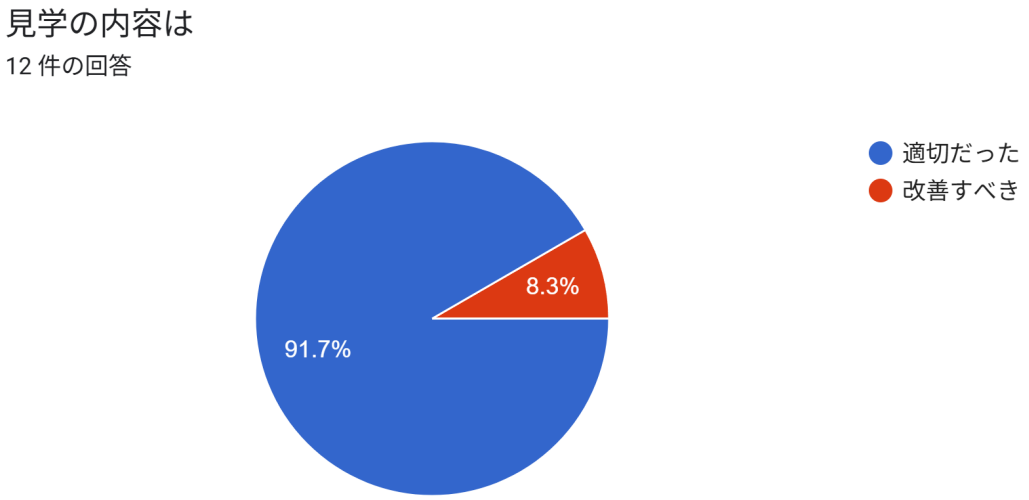
この見学に参加して、 福島第一原子力発電所（以下、「福島第一原発」）
事故等に関する理解が深まりましたか？

12 件の回答



内容

福島第一原発見学における感想について



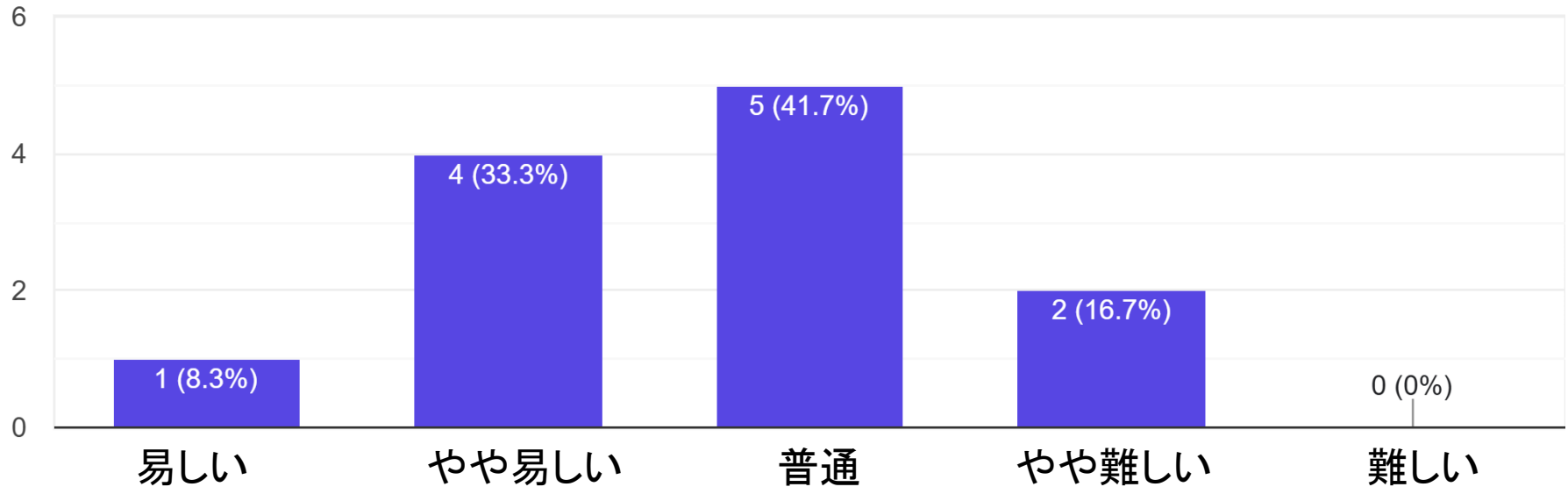
「長袖必須」は理解しておりますので、1F内は汗をかきやすいため「薄手の長袖Tシャツ等」と具体的に記載した方が、普段着が汗で濡れて不快になることも避けられてよいのではないかと思いました。

難易度

福島第一原発見学における感想について

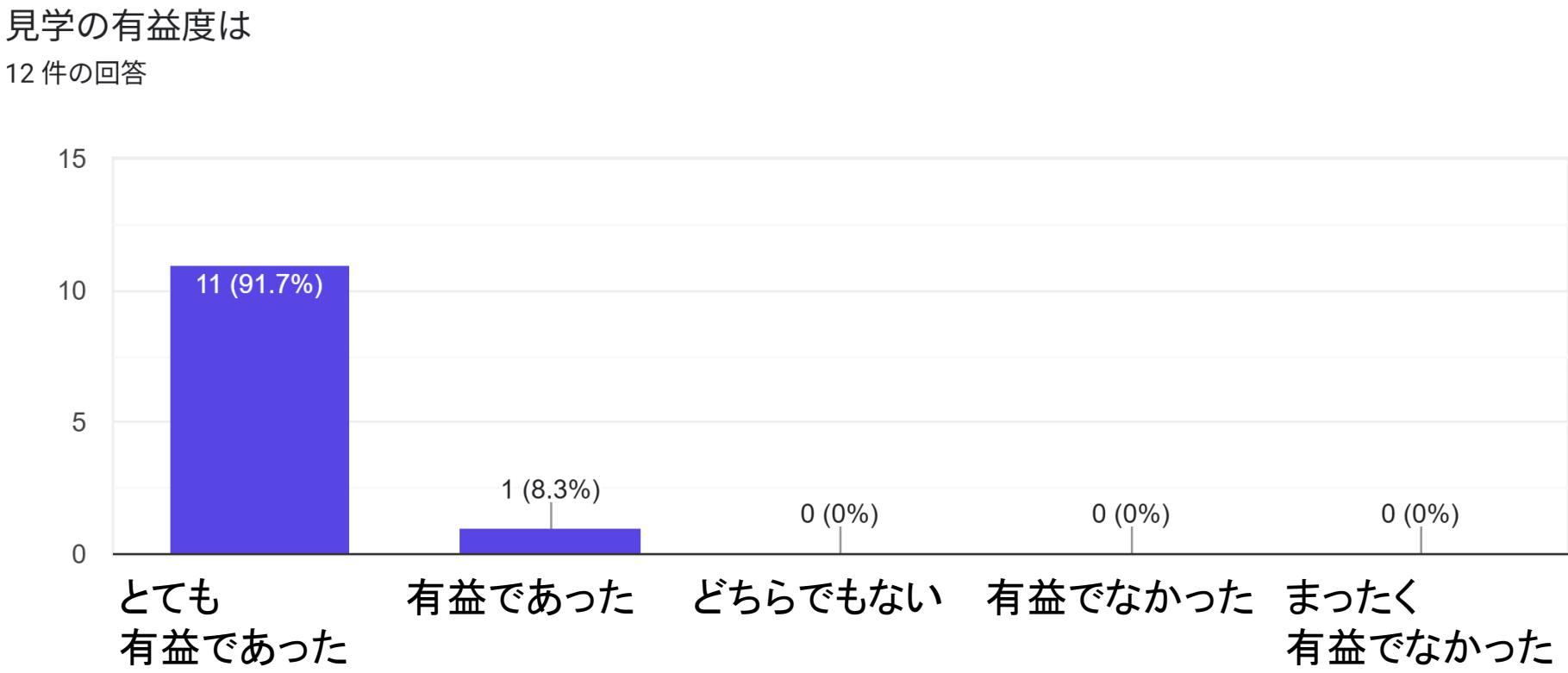
説明の難易度は

12 件の回答



有益度

福島第一原発見学における感想について

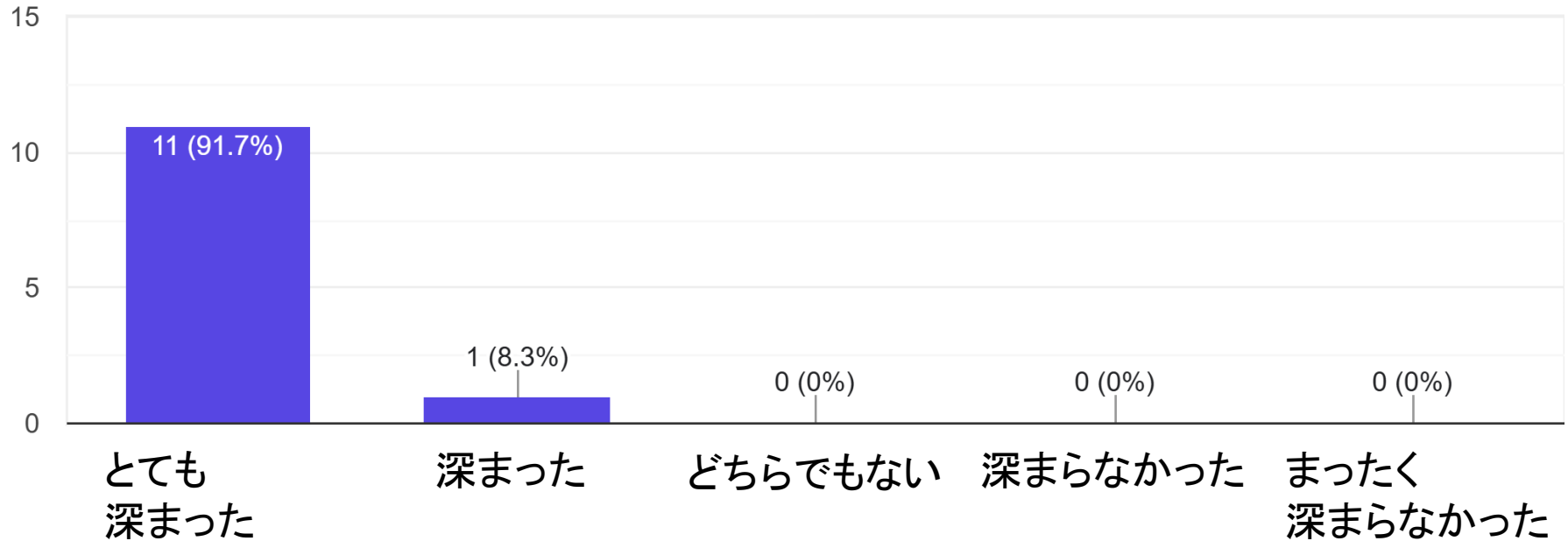


理解度

福島第一原発見学における感想について

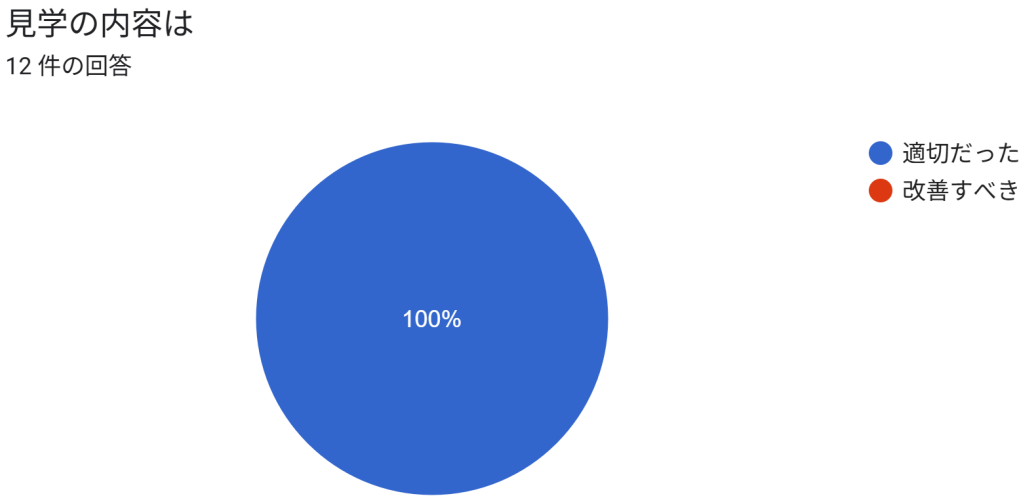
この見学に参加して、福島第一原発の現状や廃炉作業に関する理解が深まりましたか？

12 件の回答



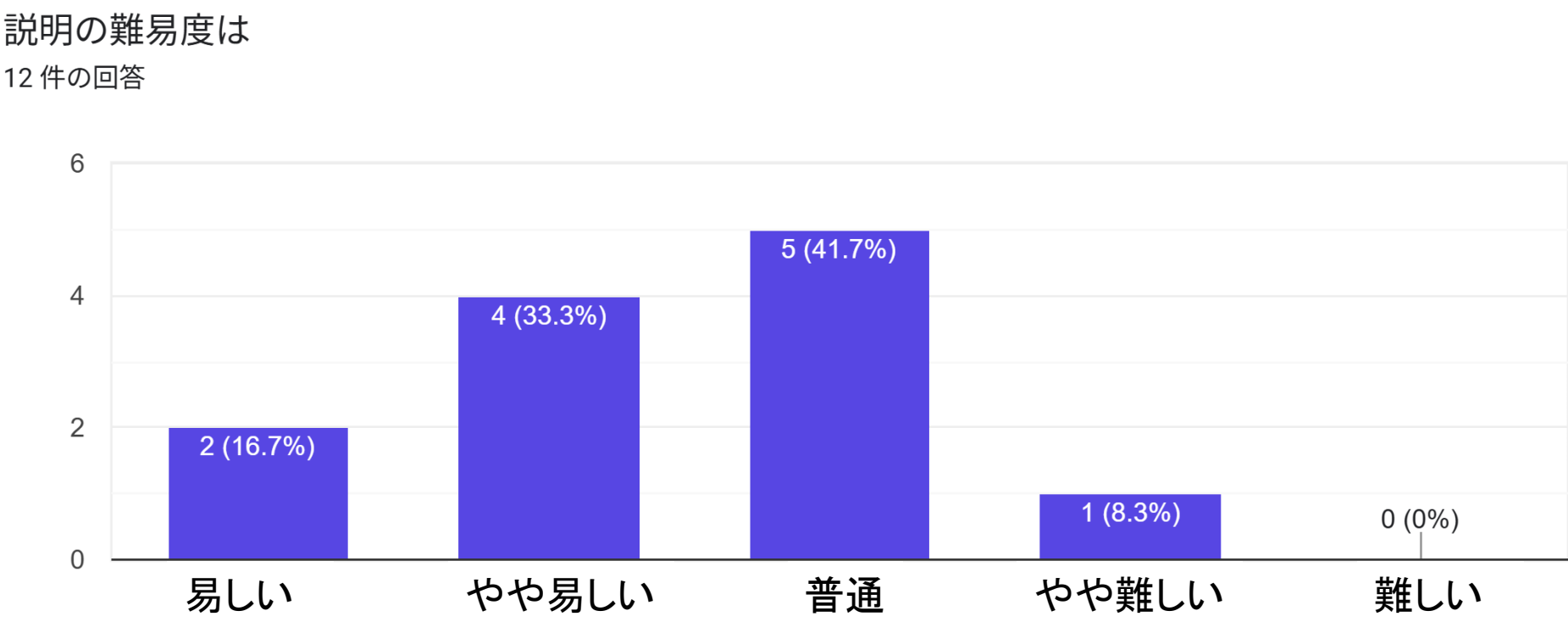
内容

廃炉環境国際共同センター（CLADS）における感想について



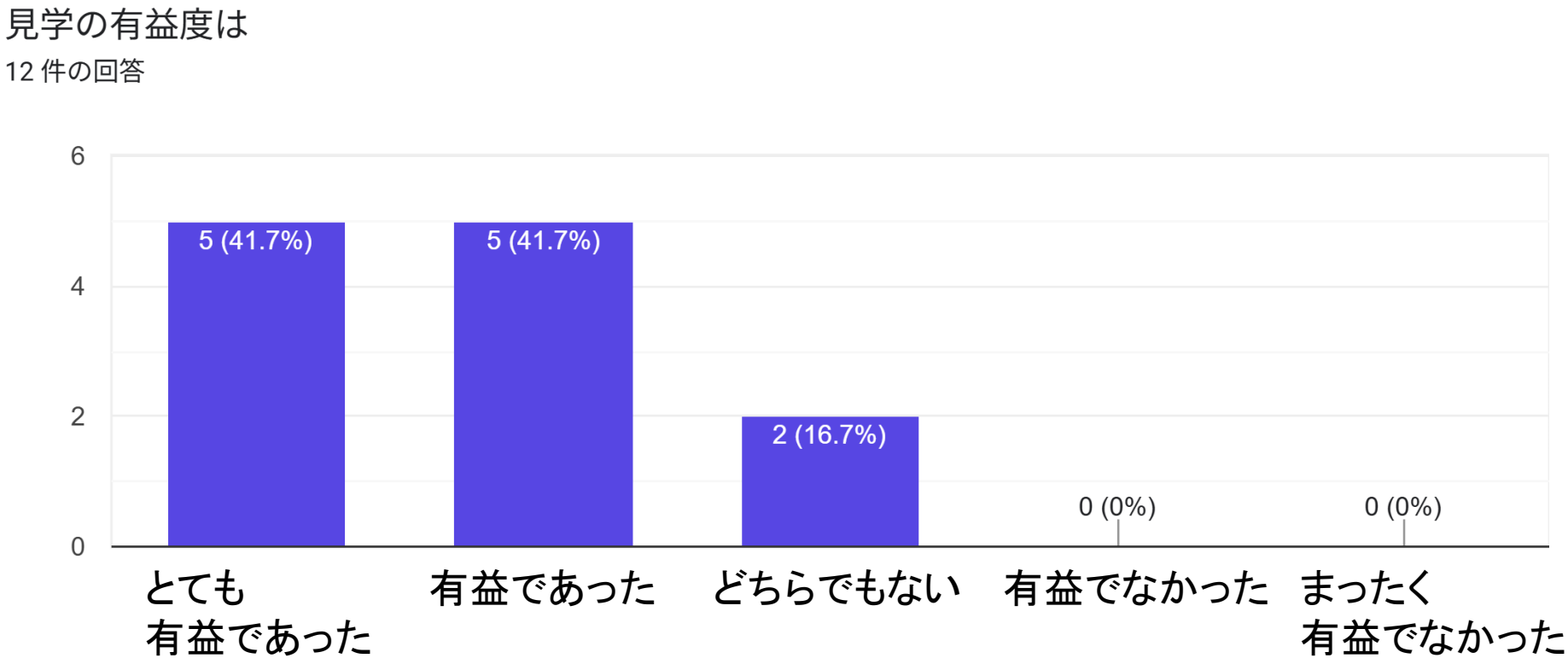
難易度

廃炉環境国際共同センター（CLADS）における感想について



有益度

廃炉環境国際共同センター（CLADS）における感想について

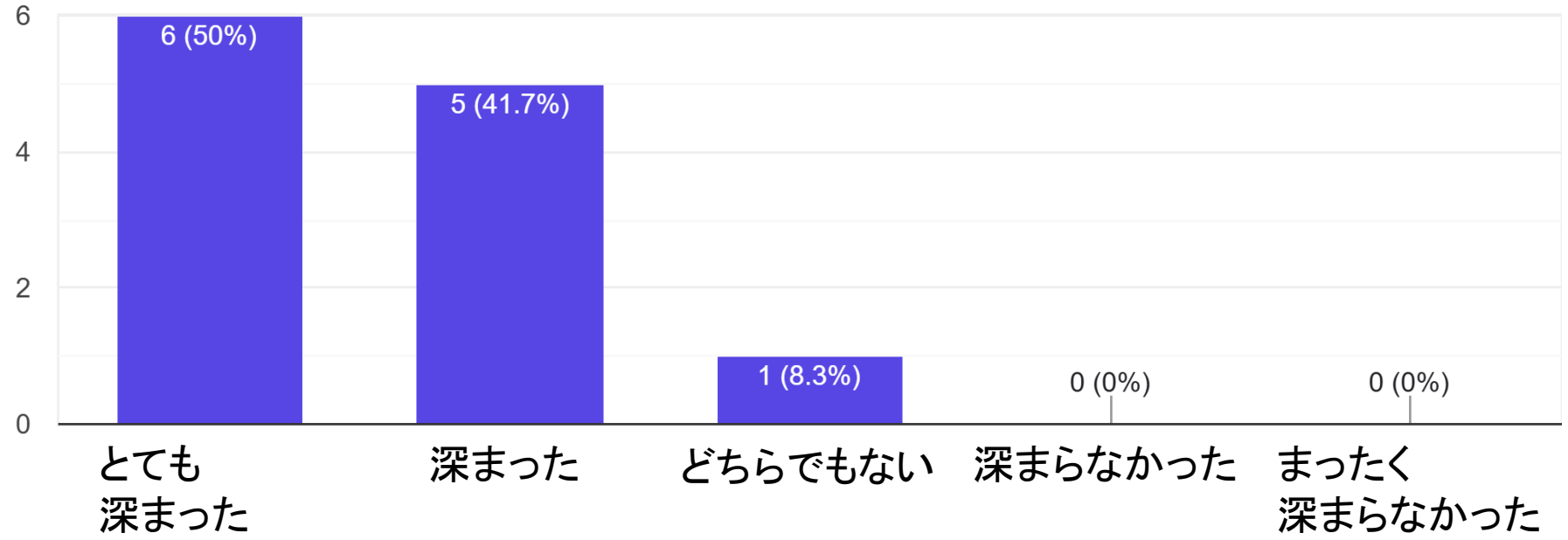


理解度

廃炉環境国際共同センター（CLADS）における感想について

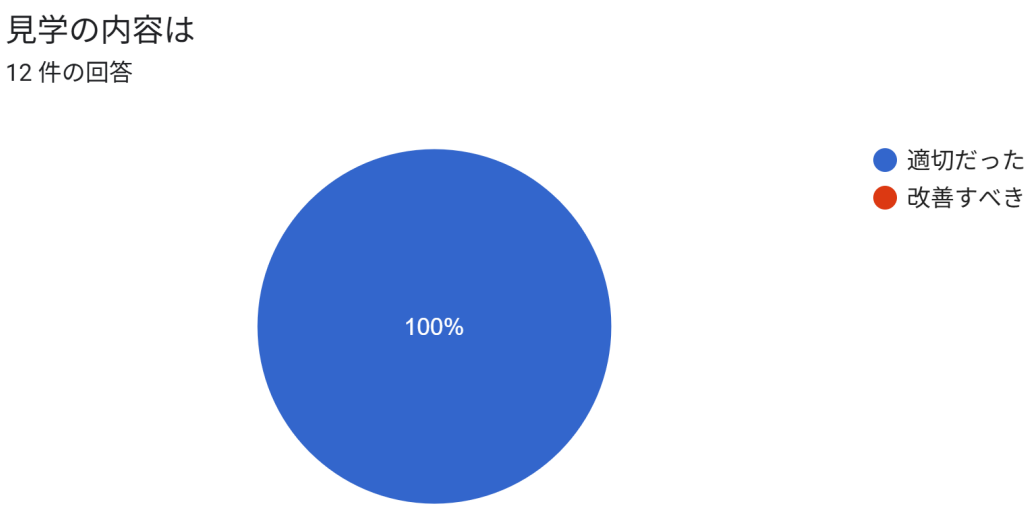
この見学に参加して、廃炉作業に向けた研究・開発に関する理解が深まりましたか？

12 件の回答



内容

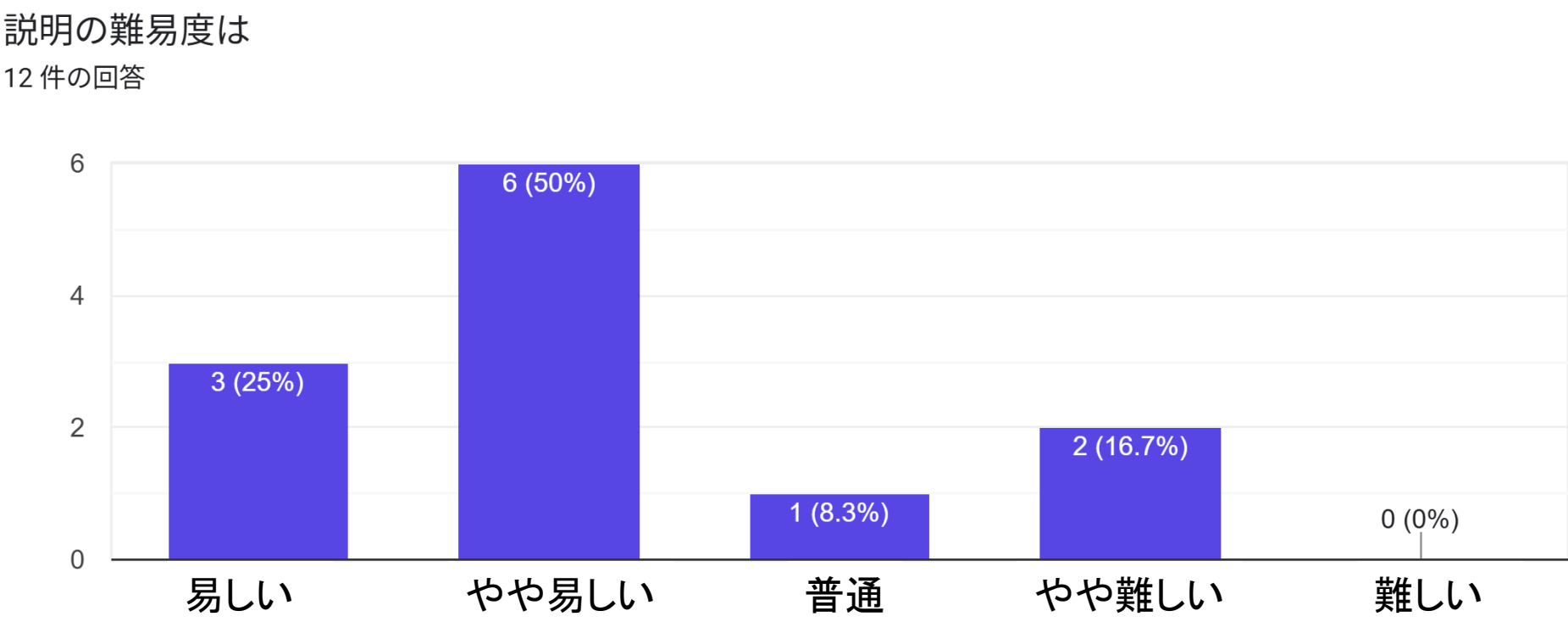
TPT福島テクニカルセンターにおける感想について



グローブボックスの体験に入る前に一通り操作の説明が欲しかった(片手ずつ入れてくださいとか手を抜く時はゆっくり抜いてくださいとか)

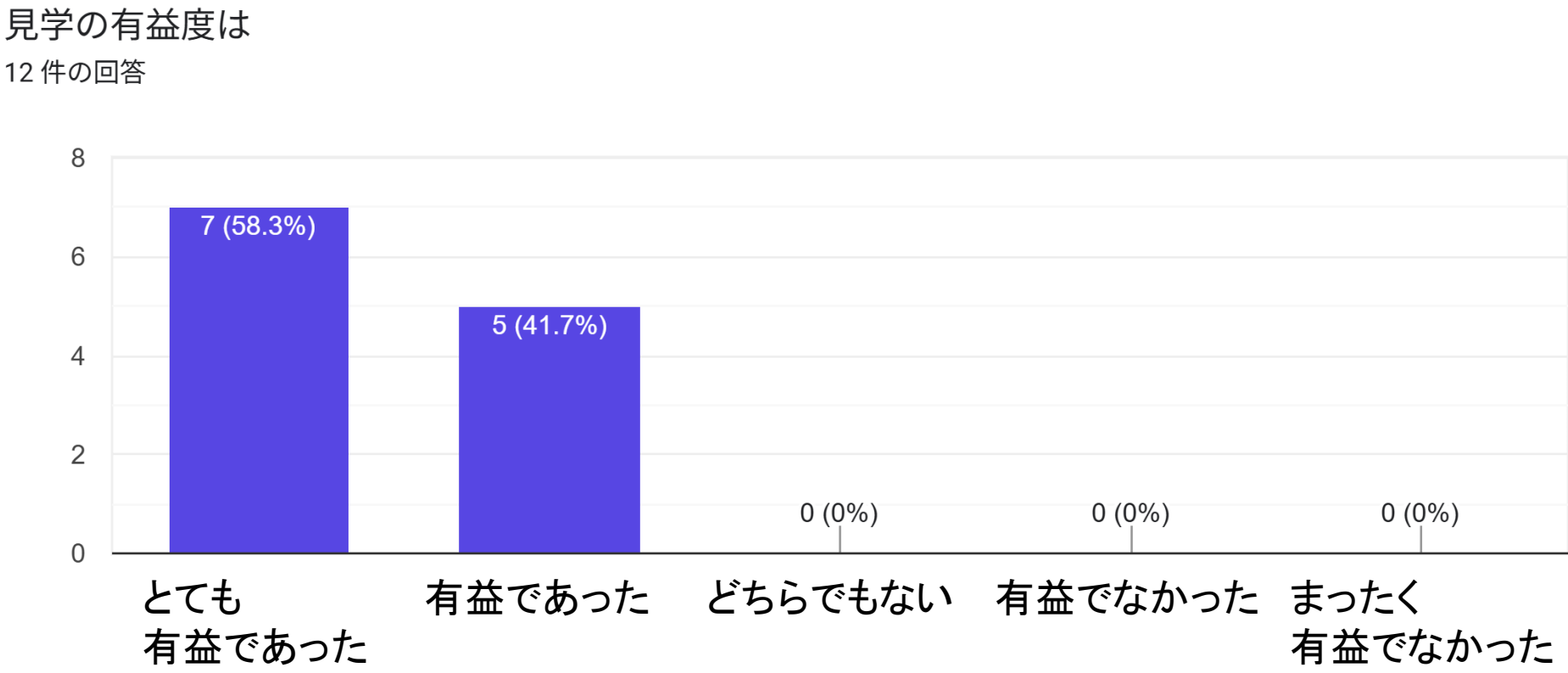
難易度

TPT福島テクニカルセンターにおける感想について



有益度

TPT福島テクニカルセンターにおける感想について

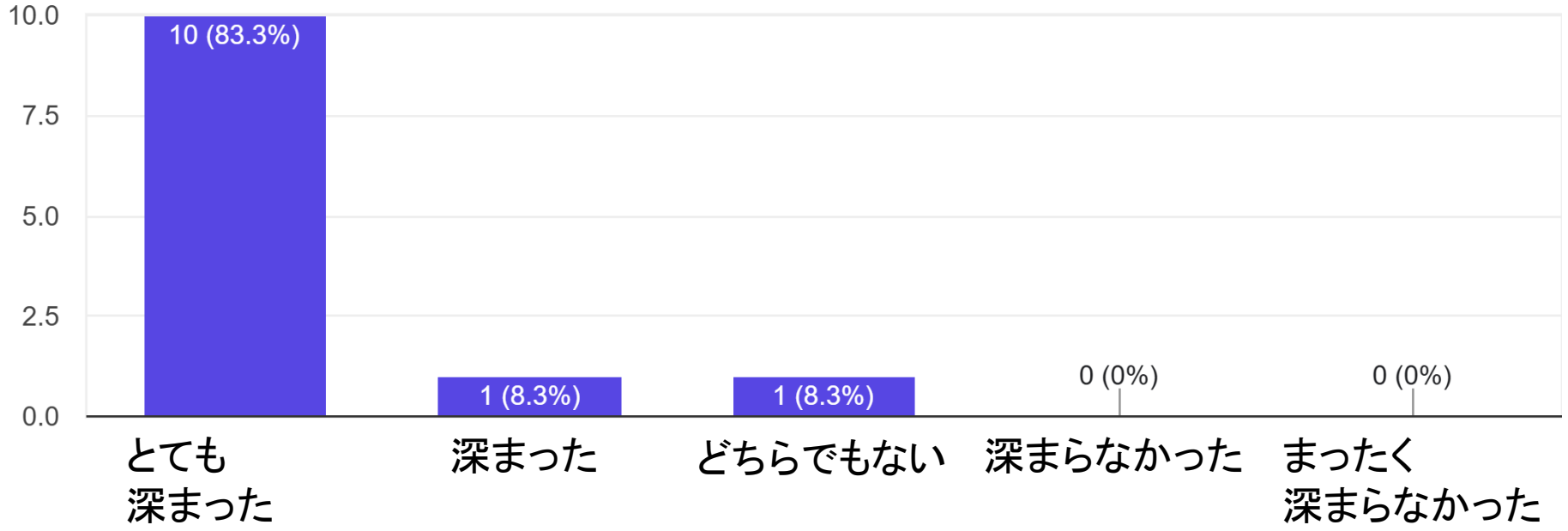


理解度

TPT福島テクニカルセンターにおける感想について

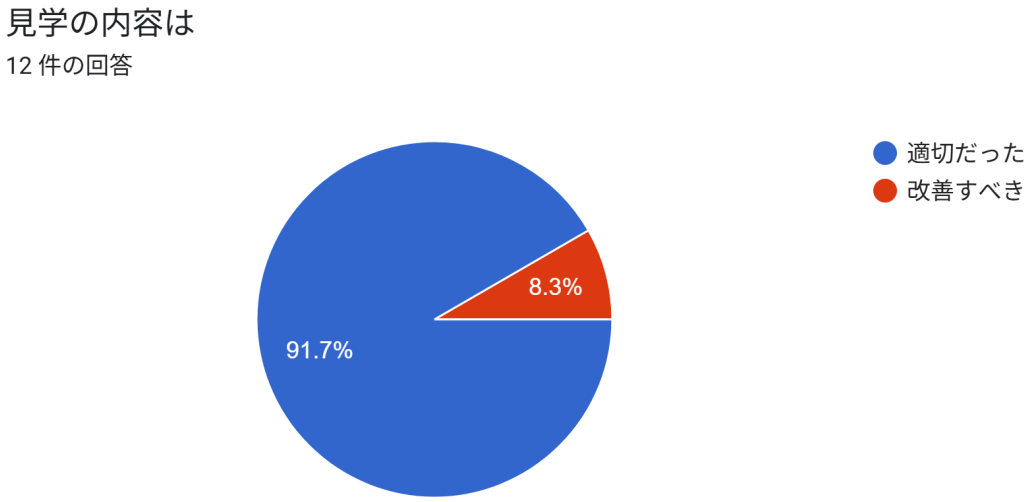
この見学に参加して、廃炉作業に向けた遠隔装置等に関する理解が深まりましたか？

12 件の回答



内容

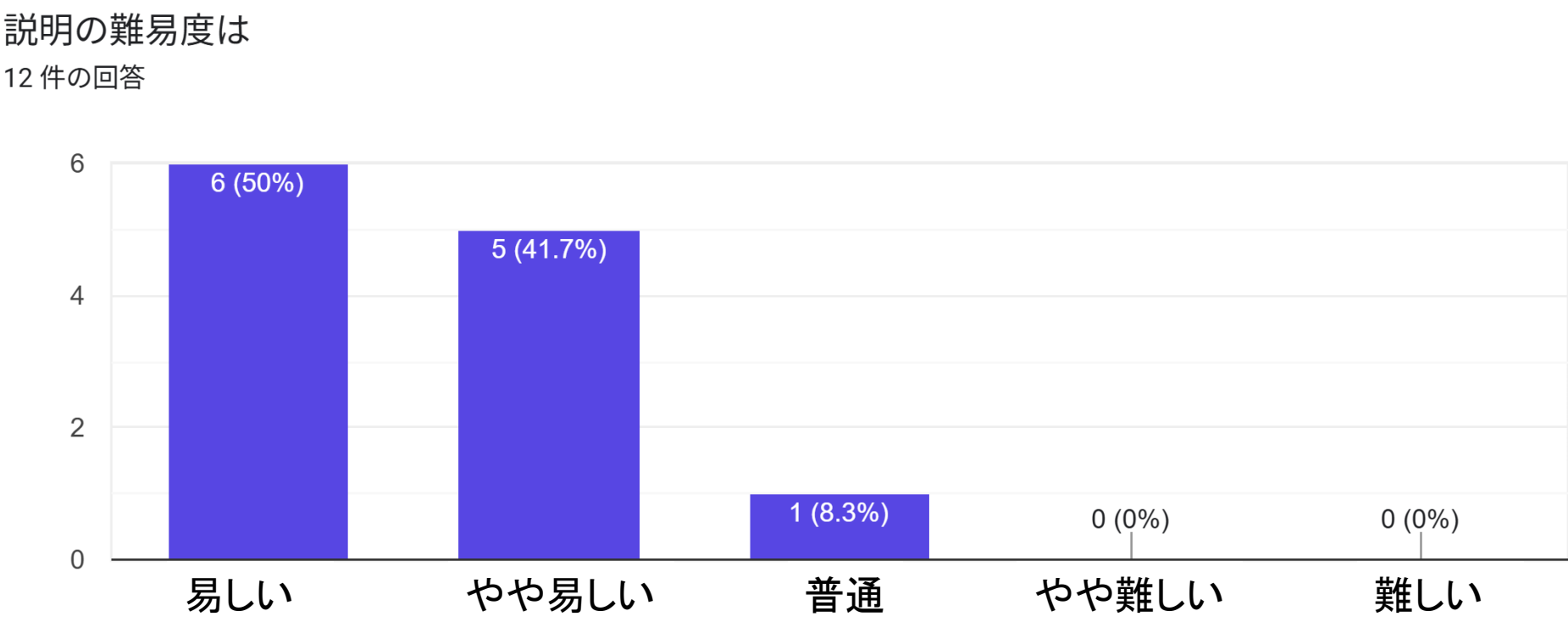
東日本大震災・原子力災害伝承館における感想について



2時間半は少し長いか…　時間配分が可能でしたら、最初に請戸小学校を45分程度、その後伝承館を90分程度とすると、地震・津波被害から原子力災害への流れがつながり、より理解が深まるかと思いました。

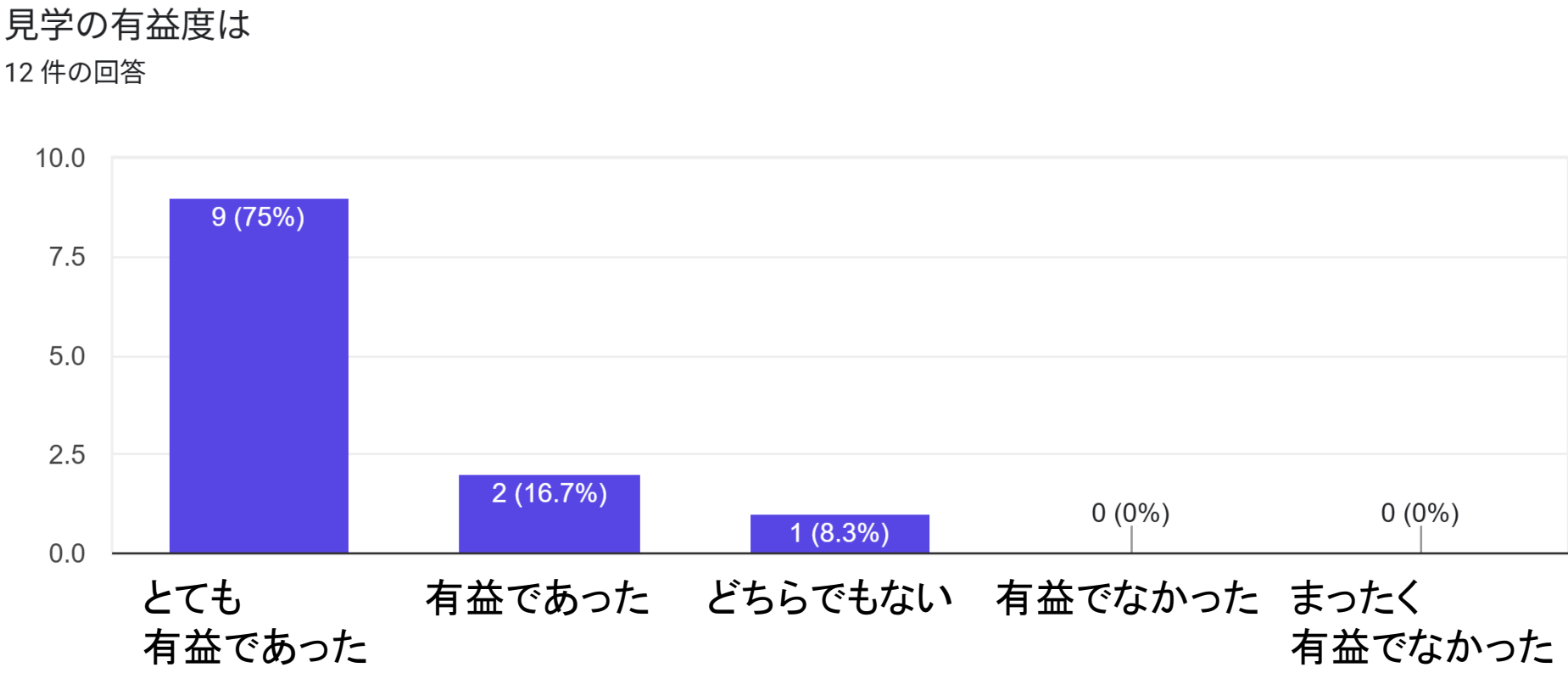
難易度

東日本大震災・原子力災害伝承館における感想について



有益度

東日本大震災・原子力災害伝承館における感想について

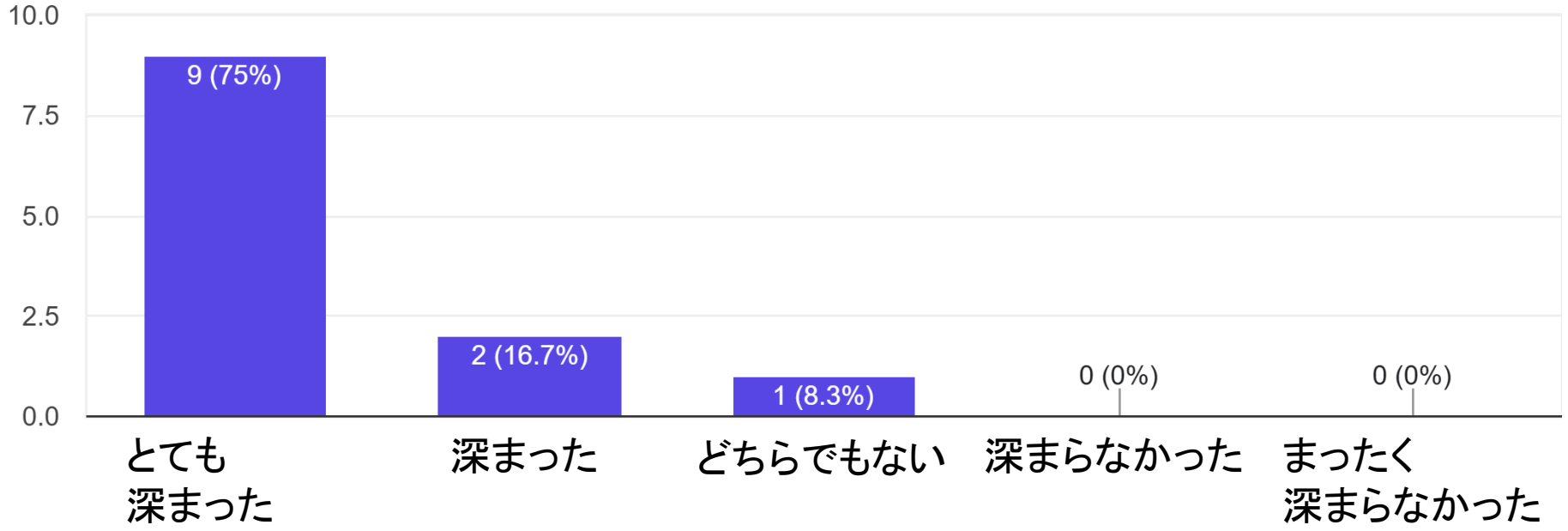


理解度

東日本大震災・原子力災害伝承館における感想について

この見学に参加して、東日本大震災とその影響に関する理解が深まりましたか？

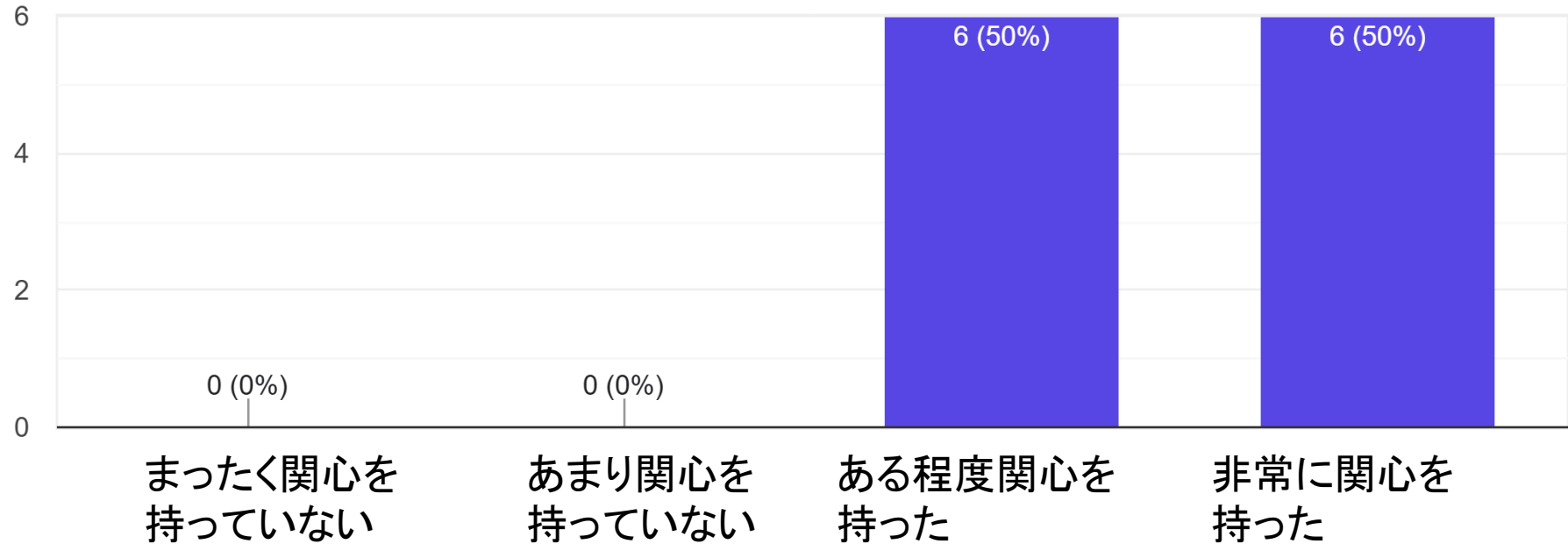
12 件の回答



就職先としての関心度

就職先として、原子力・放射線分野に関心を持ちましたか？

12 件の回答



感想、アドバイス、要望など(1)

福島第一原子力発電所の職場環境に対する率直な感想をお聞かせ下さい。

- 夏場でも防護服を着なければならず、とても長時間作業できる環境ではないと思った。
- 想像以上に除染が進んでいて作業員の方々も随分活動がし易くなったのだろうと感じた。安全保障上と外部への汚染防止の観点から今もなお厳重な施設の入退室の管理、またゾーン分けとそれに伴う装備の変更などなど、社会的に必要とされてあることが実施されていることは社会に対して忠実であり市民感情に配慮された適切なものと感じられる一方、作業員に毎回手間がかかり作業効率が下がってあることも否めない。仕方がない事なのかもしれないが、廃炉を出来る限りスピーディにしかし安全は担保される状況とはいかなるものか、考える機会になった。こうした、大きな使命感と見えない危険と共存しなければならない、現場で働いている方々を見て純粋に励まされたような、勇気をもらったような、そんな気がした。
- 多くの作業員の方が働かれており、放射線に関する対策が何重にも厳しく行われているのはもちろん、暑さ対策や、食堂などの福利厚生も備わっており、特殊ではあるが働きやすい環境整えられている。
- 室温などの物理的な環境がかなり厳しかったと感じています。保冷剤はかなりの効果を感じましたが、長時間の作業はかなり厳しそうと感じました。ただ、バスなどの構内の移動師団などが想像以上に充実していて驚きました。
- たった数十分放射線防護服を着ただけだったが、非常に暑く、防護服をきて作業をなされている方の大変さが分かった。
- 警備体制がかなり厳重であった。厳重すぎるが故に実際に労働できる時間が少なそうに感じた。
- 放射線被曝防止のために付ける防護服が、保冷剤があってもあんなに暑いとは思わなく、この服を着て作業をする人達はすごいと思った。
- 工学、化学、ロボット、放射線、環境など、さまざまな分野の知識や技術、それぞれの立場や経験が関わり合い、一人ひとりの力が集約されることで、廃炉という非常に大きな課題に向き合っているのだと感じた。
- 新たに大きな事務所などが作られ、現場だけでなく事業所全体で、廃炉を進めていく環境が整えられている印象を持った。
- 福島第一原発の職場環境は、想像以上に安全管理や被ばく管理が徹底されていると感じました。一方で、防護装備や暑さなど、現場で働く方々の身体的な負担も大きく、廃炉作業を支える職場環境の厳しさも実感しました。
- 見学したコースでは、きれいな施設が整備され、外でもカバーオール等を着用しなくて良い場所が多いなど働きやすい環境が整ってきているのではないかと感じた。
- 今回見学会を担当してくださった職員の皆様はとても感じが良く、職場の雰囲気は良いと感じました。

感想、アドバイス、要望など(2)

大熊町・富岡町の生活環境に対する率直な感想をお聞かせ下さい。

- コンビニ、スーパーが少なく、現地に住んでいる方々はどこでどのように食料を調達しているのか気になった。
- 約3年半前に被災地のいまを目で見ておくことは必要だと感じて双葉駅を訪問したことがあったが、その時と比べても目に見えて復興が進んだと感じられる場面が幾つもあってどこか嬉しかった。まだまだ町民の帰還が進まず先行き不透明な状態で復興を進める難しさもあると思うが、環境が整うのを待ちたい、というのも市民の思い出は無いだろうか。
- 復興によって、徐々に商業施設や鉄道が戻ってきており、人が集まりつつあると感じた。
- 率直な感想としては、かなり生活は難しそうと感じました。店舗などは充実していましたが、車が主な移動手段である点や東京からの移動時間がかなり長い点などが大きなデメリットだと感じました。
- 至るところに線量が表示されており、場所によって数値が変化する線量が興味深かった。
- ところどころ2011年当時のままの環境があったが、全体的に復興が進んでいた。
- 住民によると、かつては周りにお店が栄えていたらしいのですが今は少なく、震災、福島原発爆破事故の影響を生活圏に居ることで実感しました。
- 復興が進んでいると感じるところもあれば、まだまだ時が止まったような感覚になる場所もあると感じた。
- やはり大熊町と双葉町は帰宅困難区域が未だに多く存在し、食料品売り場や病院などの生活インフラは整備されていない印象を受けた。それでも津波跡地などでは企業の誘致が進んでいることも知れた。富岡町は、駅周辺は津波で流された後整備し直した一方、高台にある町は十分人や産業が存在していると実感した。
- 生活環境は徐々に整備されてきていると感じますが、医療施設やスーパーなど、日常生活を支える施設はまだ十分とは言えない印象です。特に、安心して暮らし続けるためには、医療・買い物・交通などの生活基盤をさらに充実させていく必要があると感じました。
- 本数は少ないながらも特急が停車し、スーパーなどもあり生活に必要最低限の環境は整っていると感じた。一方で、高校からは町外に出なければいけないなど、住民が定着し、子育てをして人口が増える環境が整っているとはいえないと感じた。
- やはり人が住めるようになったといえど、そこで生活するとなると、買い物に行くにしても別の街に行かないといけないなど不便であると感じました。

感想、アドバイス、要望など(3)

全体を通じた感想や本見学をよりよくするためのアドバイス、要望などに関する記述をお願いします

- 説明の際に聞き慣れない専門用語が多く、内容の全体像を把握しづらい場面があった。そのため、頻出する専門用語を簡単にまとめた資料があると、より理解しやすいと感じた。
- 5号機の使用済燃料プールの見学と格納容器内の見学の順序を逆にしていただけたらありがたかったと感じています。使用済燃料プールの見学時に安全メガネが呼気による曇りと汗の水滴で、視界がかなり悪かったです。
- 3年前に福島を訪れたが、1Fや荒廃した町を見学して驚きと絶望感に満ちたのは、今でも強烈な記憶として残っている。これを機に原子力に対して真摯に勉強するきっかけにもなった。そこから3年が経過し、本実習の見学を通して復興が着実に進んでいると認識できた。今回の見学会を通して、廃炉の課題や復興の軌跡を確認できたものは有意義であったし、自らも原子力に対して真摯に向き合うモチベーションの増加にも繋がった。
- 専攻が原子炉ど真ん中の人が興味を持ってこの見学会に行くのは、もちろんいい事だとは思うのですが、専攻から少し離れている廃炉に携われる人(工学、ロボティクス、情報系)の人達がもう少し多くて良いのかなと思いました。
- IHI横浜事業所では、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取り組みについて学んだ。遠隔アクセス装置（圧力容器内部調査技術）を実際に動かしていただき、どのように原子炉内部へ装置を入れ、燃料デブリの取り出しにつなげようとしているのかを見学した。小さな穴から装置を挿入し、遠隔操作によって内部の調査を行うため、装置はかなり長い形状をしていた。自重による歪みやブレが生じてもおかしくない長さであるにもかかわらず、実際にはほとんどブレのない、非常に正確な動きをしており、燃料デブリの取り出しという難しい作業のために、高度な技術が集約されていることを実感した。また、燃料デブリを安全に取り出すため、原子炉建屋内の障害物を撤去する遠隔装置についても、実際の操縦の様子を見学した。コントローラーを用いて、高線量環境下でも人が直接立ち入ることなく、より正確かつ安全に配管の隔離・撤去を行うための技術であり、普段の生活では目にすることのない「人が入れない場所で、人に代わって作業する技術」の重要性を感じた。これまで廃炉資料館などで写真や資料を見る機会はあったが、実際に福島第一原子力発電所を訪れ、自分の目で見ることで、写真や資料だけでは得られない多くの気づきや学びがあった。実際に現地を見ることで、施設がどれほどの大きさなのか、どのような構造になっているのか、タンクがどれほど設置されているのか、津波がどこまで到達したのかなど、これまでニュースなどから得ていた知識やイメージが、より鮮明で具体的なものになった。また、今回の視察や他大学の方々との交流を通して、廃炉は一つの分野だけで成り立っているものではなく、さまざまな環境や境遇、想い、考え、背景、経験を持つ人々が関わりながら進められていることを実感した。さまざまな分野の知識や技術、それぞれの立場や経験が関わり合い、一人ひとりの力が集約されることで、廃炉が進められているのだと感じた。実際に現場を見たことで、廃炉という言葉の中に、技術だけではなく、多くの人の知識や経験、想いが込められていることに気づくことができた。そして、自分自身が学ぶだけでなく、廃炉について知り、考える人を増やしていくことも、復興に関わる活動の一つなのではないかと感じた。今回の経験を生かし、さまざまな分野の視点を取り入れながら学び続けるとともに、浜通りの「今」を自分の目で見て、知り、考える人を一人でも増やせるような活動につなげていきたい。
- まずは、大学・大学院で原子力工学について学び将来原子力発電関係のメーカーでエンジニアになることを志している身として、福島第一原発を実際に見学し、事故から廃炉までを網羅的に学ぶことができたのは貴重な経験であった。炉ごとに別々の廃炉計画がある事故廃炉は、今まで見てきた他の廃炉とは全く異なり、東電だけではなくさまざまな企業・団体がそれぞれの役割を担い、このチャレンジングな廃炉に取り組んでいることを理解した。また震災当時事故対応を経験した社員の話は初めて知ったことが多く、教科書化されていない生の声を聞くことができたのはこれ以上ない貴重な経験であったと実感している。また今回の見学会を通して、これをアドバイスというのかはわからないが、東電はもっと廃炉活動をアピールした方がいいと感じた。地下水対策や燃料取出し、その他敷地の整備など、同じ東北にいて原子力を学んでいる私でも知らないことが多く、あまりメディアも取り扱っていない印象を受ける。(比較的メディアは、何年続くのか、現場ではなく東電の体質、避難した住民の方などを取り上げ1Fを批判して、廃炉技術にはほとんど触れない印象がある)。広報活動はされていると思うのだが、それをもっと身近に見れるようになると良いと思った。私自身は来年から原子力の仕事といえど、直接的に1F廃炉へ携わるわけではないが、何年後に1Fの映像を見た時に、昔見学した時よりあれか進んだこれがわかったという未来が訪れることを楽しみにしている。
- 今回の見学は、福島第一原発の現状や周辺地域の復興状況に加え、関連する工場や施設も実際に見学することができ、大変有意義でした。現地だけでなく、廃炉を支えるさまざまな施設を直接見ることで、より幅広く理解を深めることができました。一方、品川―富岡間の移動については、旅行会社等で一括して手配いただけると、参加者にとってより分かりやすく、スムーズではないかと思います。
- 原子力が専門ではなかったが、3日間の見学で福島第一原発事故の概要と現状、課題や研究開発状況を理解することができた。特に5号機内部の見学では、実際に目で見ることでスケール感や構造などを体感し理解を深めることができた。また、私の専門分野は土木であるが、原子力発電所や廃炉において、防波堤や凍土壁など土木が果たしている役目について知ることができ、今まであまり関係ないと考えていた原子力分野を身近に感じることができた。また、全国から集まった様々な分野の学生や教員の方と交流することができ、特に普段関わる機会のない原子力関係の学科の方や福島の復興に関する活動をされている方と話すことができたのは、非常に有意義な経験だった。
- 今回この見学会に参加してみて、今まで廃炉についてほとんど知識もありませんでしたが、様々な施設を実際に自分の目で見て見学し、たくさんの貴重な体験をすることができたので、とても良い経験になりました。震災についても改めて学び、今の原発な地域の現状、問題を再確認しました。また、福島原発の見学会や懇親会では現場で働く職員の方々と交流し、仕事内容など様々なお話を聞くことができたので、廃炉作業に関わる仕事にも興味をもちました。今後も自身で廃炉作業の情報を追って学びを深めていきたいと思います。